報恩講法要のご案内

秋も深まり、肌寒さも感ずる季節となりましたが、皆様には益々ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、本年の宗祖報恩講法要を左記の要項にて勤修いたしますので、ぜひお参り下さいますようご案内申し上げます。

日時　十一月十八日（金）午前十時（正午終了予定）

満日中法要　おつとめ・法話

法話　石田宏壽先生（道因寺前住職）

本年は、お斎（お食事）をご用意いたしません。参拝記念品をお渡しいたしますので、受付にてお受け取り下さい。

十七日の逮夜法要・入門式は執り行いません。

当日は、感染拡大防止対策にご協力下さい。

直近の状況による要項の変更や中止の場合、あらためてご連絡いたします。

浄土真宗本願寺派　円寿寺

報恩講のいわれ

親鸞聖人を宗祖と仰ぐ浄土真宗門徒にとって、報恩講は一年のうちでもっとも重要な行事です。春・秋のお彼岸やお盆に一家そろってお寺参りをし、先祖のお墓参りをすることは宗派にかかわりなく一般の仏教習慣になっていますが、報恩講のお寺参りとなると、ことに若い世代を中心にだんだんと馴染みが薄くなってきつつあるのではないでしょうか。

報恩講は、浄土真宗を開かれた親鸞聖人のご命日を縁として、その流れをくむ門徒が集い、聖人のご苦労を偲んで営まれる一年でもっとも重要な法要です。

私たちは、ご先祖の年忌法要には割り合い気を配りますが、その先祖の方々が心から慕われたのが親鸞聖人であり、また「聖人のみ教えを拠り所に人生を歩むように」と私たちに願われているのもご先祖の方々です。

親鸞聖人のご恩に感謝し、聖人が示して下さった阿弥陀如来のご本願を仰いで、お念仏に生かされる人生を歩むのが浄土真宗の門徒です。報恩講はそうした私たちにとって、何よりのご勝縁となる法要なのです。

本山である京都の西本願寺では、聖人のご命日（一月十六日）に合わせて、毎年一月九日から十六日まで七昼夜にわたって勤められます。

浄土真宗の各お寺では、本山の法要に先立って勤めるのがならわしで、そのため「お取り越し」などとよばれたりします。

いずれにしてもこのご縁を大切にし、仏さまのみ教えに触れてまいりましょう。